

議事録

会議名	令和6年度第1回京田辺市総合教育会議
日 時	令和6年4月10日（水）午後3時30分
場 所	京田辺市役所403会議室
出席者	上村市長、山岡教育長、西村教育長職務代理者、藤原教育委員、上村教育委員、伊東教育委員 (事務局) 池田企画政策部長、森田企画政策部副部長、古谷企画調整室指導主幹(教育部副部長)、平岡企画調整室指導主幹(教育総務室担当課長)、近藤企画調整室主査(教育総務室係長)、鈴木企画調整室再任用主査(教育総務室再任用主査)、櫛田教育部長、片山教育指導監、勝又こども・学校サポート室総括指導主事、田原学校教育課長、西村学校給食課長、出島社会教育課長、七五三社会教育課担当課長
審議内容	・ (仮称) 京田辺市新しい学校づくりプラン

○議事

・議 事 (仮称) 京田辺市新しい学校づくりプランについて

事 務 局 (資料に基づき説明)

市 長 プランに定める事項の3つとも本市的課題。すべての子どもの学ぶ権利をどのように担保していくのか。ご意見等伺いたい。

教育委員 ソフト面とハード面が連携する姿を書いてほしい。環境が変われば、教員の教え方も変わるので、教員の研修の機会等、ソフト面の充実を付け加えてはどうか。

市 長 プランは20年の計画であるが、この先10年後の教員含め学校環境の状況がどうになっているかはわからない。

教育委員 コロナによるICT化の流れで教育現場の環境が変わった。それに応じて人も変わっているので、その現状をプランに書き留めるほうがよい。

教育委員 教育内容が教師から子ども達との一方向のスタイルから子ども達同士を含めた双方向で関わるスタイルへの変化により、今後の学習形態は「個別最適な学び」、「協働的な学び」がキーワードとして、大きな方向性を共通理解とし、これを踏まえて施設の整備を考えることが重要である。施設は一度建てるに簡単に変えることができないので、しっかりとと考えていかなくてはならない。

教育委員 「個別最適な学び」がこれから大きなテーマになってくると感じる。家庭

の在り方が昔と違い、リビングから家族全員が見える形が当たり前の生活となっている。学校も家庭に近い感覚になっていくのではないかと思う。しかし、施設を大きく変えていくことは難しいが、どうやってレイアウトを変えていくのかを考えた時、例えば、大住こども園が廊下を有効活用され、全体を見通せる作りで、理想的なレイアウトであると感じた。また、海外や私立の小中学校は以前か考えられた作りと感じており、このような先進的な所を学びながら学校を考えていくことが必要ではないか。今後10年20年先、タブレットの活用により、こども達の感覚が「先生とみんな」から「先生から個人」が当たり前に変化していく中で、最適な学びになるような学校づくりを考えていく必要があるのではないか。

教育委員 職員室の先生の働き方の在り方についても環境整備の中にいれても良いのでは。職員室が壁に仕切られ、こども達と教員の距離感があるので、隔たり無くコミュニケーションがとれるようプランに盛り込んでいくことも必要ではないか。また、既存にある施設と施設を広くして地域住民が利用できるよう環境整備も合わせて行っていく。例えば、図書館、体育館、包括支援センターを含め地域と一体となって整備することで、京田辺市全体の発展に繋がるのではないか。

教育長 10年ほど前、府立高校の新設に関わらせていただいた。少子化が進む中であるが、不登校を含め多様な学びのために、昼間定時制高校を新設した。

その時は、ソフト面は基本計画的なものがあり、そこにある新たな学びを取り入れていった。ハード面は、一から理想的な時代のニーズにあったものを考えた。例えば、職員室はガラス張りで先生とこども達が双方で視認でき、廊下は迷わずにもとの位置に戻ることができる構造とし、教室のドアの色も教室ごとに変えて、パーテーションで区切れる様にして配置を工夫する等、ありとあらゆることを考えた。このように、一からあれば、理想的なものをつくることができる。しかし、本市教育現場の状況では、偏在をどのように解消していくかどうかの整理が必要となり、統廃合あるいは新設なのかを考えた上で、ハード面をしっかりと確定していく、その上で一定の方針を決め、具体化の時にソフト面や新たな環境で力が發揮できる教員の育成を行っていく。また、プールの跡地、小学校の給食施設の老朽化、教室の不足、長寿命化の要素が絡んでおり、これを整理した上で、近い将来適正規模を確定していく、その方針を持って市長に理解、協力していただきて、予

算をつけていくいただくという流れが良いと思う。

市 長 少子化の波が大きい京都府北部の現状を見たり、お話を聞きしたりする中で、本市では学校統廃合は地域の危機感が発生しないと行うべきではないと感じている。偏在はあるが、地域では、比較的こども達がいるという雰囲気があり、統廃合の危機感は未だなく、適正化の話は難しく感じる。地域の危機感が醸成されるまでは施設を抱え続ける覚悟で12校体制は維持する意識を持っている。その上で10年、20年後先にどうしようもない状況となれば、動かざるを得ないのではないか。

教育長 人口推計からいくと20年後は少子化が進むことから、それぞれの学校の環境を充実させることは難しい。新たな学校づくりを統廃合でなく特色化等リニューアルを行っていくことも一つの姿である。

教育委員 一からの学校づくりでは、ハード面とソフト面を一体的にできるが、12校体制前提でハード面を改善していくとなると難しい。ただし、その場合でも例えば、普賢寺や培良中の特認校のカリキュラムやプールの授業も変わっている。ハードが変わればソフトも変わらざるを得ない。その両輪を失ってはいけない。もう一つ、老壮青小幼が一体のまちづくりとして、年数回のプロジェクト等をソフト面に取り入れていくのも良いのではないか。

市 長 プール授業の変化により、こども達の学びの在り方はどのように変わっていくのか楽しみでもある。

教育委員 3ページの文章表現が気になる。老朽化しているからではなく、より一層良くしていくという表現が良いのでは。

市 長 学びが変わってきたから学校も新しい形に変えていくというニュアンスの方が良い。

教育委員 1ページの趣旨のところのマイナス表現が気になる。これまでも変化しており、与えられた環境で行ってきたが、さらに良くするために行うという表現が良いのでは。

市 長 たしかにそのとおりである。

市 長 一例であるが、浦安の学校を視察したとき、学校内と周辺を仕切るフェンスがなく、地域住民が校内を散歩させていた。また、ノーチャイムなども取り入れており、色々衝撃を受けたことがあった。これからいろんなことが変わってくるかもしれない。

市 長 最後にまとめると、策定方針案の中ではマイナスの表現を見直す。環境と教

員との関係や「個別最適な学び」、「協働的な学び」のニュアンス、地域と学校との関係性をプランへ盛り込んでいくという方向でまとめたいと思う。

～以上 散会～